泣くな！

シリーズ～新イエス～

2025/5/11

母の日礼拝

ルカ福音書　7章11～17節

　それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちや大勢の群衆も一緒であった。イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出されるところだった。その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。

ルカ福音書　7章11～17節

イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。すると、死人は起き上がってものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。人々は皆恐れを抱き、神を賛美して、「大預言者が我々の間に現れた」と言い、また、「神はその民を心にかけてくださった」と言った。イエスについてのこの話は、ユダヤの全土と周りの地方一帯に広まった。

ナイン●

- ガリラヤ湖からは少し離れた（30km）小さな田舎町
- イエスが生まれ育ったナザレ●にほど近い

やもめ（寡婦）について

- 「その母親はやもめであって」
  - 最も弱い立場に置かれていた
  - 仕事もなく経済的にも苦しかった
  - それと分かる服装をしなければならなかった
- 律法には主は寡婦の味方と記されている
  - 「孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。」申命記10:18
- 「落穂拾い」が許されていたが…
  - 「畑で穀物を刈り入れるとき、一束畑に忘れても、取りに戻ってはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。」24:19

希望であり光であった一人息子

- 「ある母親の一人息子」
  - 恐らく若いときに夫に先立たれた
  - この息子だけが彼女の希望であった
  - 貧しい暮らしであったが一人息子の成長だけを生きがいに日々を送っていた
- いよいよ独り立ちして母を支える時がきた
  - イエスが「若者よ」と呼びかけていることから、10代の青年か？
  - やもめにとっては長年の苦労が報われた幸せな日々が訪れていたのでは

突然襲い掛かった不幸

- 一人息子の死
  - 死因は不明だが…
  - 親にとって子どもに先立たれるほどの不幸はない
    まして一人息子
- 奪われた唯一の希望
  - これまでの苦労が水泡と化し、深い悲しみに突き落とされた
  - 明るい未来が一瞬にして真っ暗になった
- 神に見捨てられたと感じただろう
  - 神を呪ったのではないだろうか

出会った二つの集団

- 喜びと希望に満ちたイエスの集団
  - イエスの癒しや奇跡を目撃した「弟子たちや大勢の群衆」
- 悲しみと失望に満ちた葬列
  - やもめの一人息子の遺体を埋葬するため、町の門を出てきた人たち
  - 泣き崩れ、今にも倒れそうな母親
  - それを支える大勢の町の人たち

イエス、母親に声をかける

- 「この母親を見て、憐れに思」った
  - 「憐れに思う」と訳されている言葉は“スプラグクニゾマイ（ギリシャ語）”
  - “内臓が揺さぶられる”という意味
  - イエスは心の底から母親に同情した
- 「もう泣かなくともよい」と言われた
  - 原語では「泣くな！」（文語訳・8:52も）
    - 英語訳は″Don’t cry.″ ″Do not weep.“
  - （私がこれから息子をよみがえらせるから）「もう泣かなくてもよい」という意味に訳している
    - そのような思いで言われた言葉なのか？

よみがえった息子

- 「近づいて棺に手を触れられると」
  - 「棺」ではなく、担架のようなもの（棺台、棺架）
  - イエスは遺体に直接触れた
    - 「どのような人の死体であれ、それに触れた者は七日の間汚れる。」民数記19:11
- 「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」
  - 命の与え主としての権威ある言葉
  - 「すると、死人は起き上がってものを言い始めた」
- 「イエスは息子をその母親にお返しになった」
  - 彼女の胸に再び希望の灯がともった！

「泣くな！」

- イエスもやもめの子であった
  - イエスに弟や妹がいることから、イエスが10代の頃にヨセフは亡くなり、長男として働き一家を支えたと考えられる
- 世界中にあふれている悲しみ
  - 一人息子を失ったやもめが大勢いる
  - 死による悲しみは世界にあふれている
- イエスは彼女たちに「泣くな！」と言っている
  - イエスは彼女たちに心から同情しているが、本物の希望は息子にではなく神にあることを知って欲しい

- イエスもやもめの母を悲しませることになる
  - 母の目の前で十字架につけられ殺される
  - 母マリアは愛する息子の死を目撃し、彼の遺体を埋葬した
  - この出来事と同じ経験を母にさせることになる
- 母マリアに与えた本物の希望
  - 三日目に全く新しい姿で復活し、死の先に本物希望があることを示された
  - 母マリアはイエスの弟子となり、復活の希望を伝え続けた！

あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。

ペトロの手紙一　１章２１節